

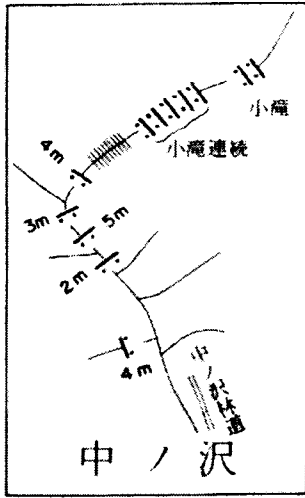
中ノ沢

シマ

一九八四年七月二一日

一二時昼食ののち、下降開始。稜線の踏跡から一〇分程で中ノ沢源頭に出る。大きなシダが生い茂り、ひよいと小人などが出てきそうな幻想的雰囲気。

一五分程下降すると、小滝が続き快調。しかし、水がとても冷たく感じられる。湧水地点がいくつかあったが、そのせいだろうか。



その先、二つ二段滝を越えると、

五つ六つの滝が連続し、その後も小滝をまじえたナメが続いて楽しい。

一二時四〇分最初の支沢が右岸から合流。本流には二つ五つの滝が続き、五本数えた支沢の位置をそのつど地図で確かめながら下降を続ける。

一三時三〇分左手に見えてきた林道に上がる。このあたり林道は荒廃

しているが、昔はトロッコが入っていたそう。この先一〇分程進んだあたりからは道らしくなり、車も通れそう。

林道を歩いているうち、しよぼつ

いていた雨が少しづつ強くなってきて、摺上沢に入った穴戸・佐藤パーティがデポしておいてくれた車を発見したと思ったらザーとやってきた。急いで車に駆け込んで中ノ沢の下降を終了とする。(記)

「タイム」 下降開始(一二:〇〇) ↓
下降終了(一二:三〇)

摺上沢

シマ

一九八四年七月二一日

出合は、兩岸よりヤブがかぶさる、

小さな沢である。歩き始めると、す